

## 港湾空港分科会における特別研究の評価及びとりまとめについて

港湾空港分科会では、港湾空港分野で行う研究開発課題のうち特別研究（運輸分野の研究機関等において行われる特に重要な研究であって、予算書に事項立てされる研究）1 課題についての評価を実施した（平成14年5月22日）。

評価の方法については、特別研究についての説明後、分科会長及び各委員からの意見及び評価を受けた。分科会における意見及び評価に基づき、分科会長の責任において評価結果がとりまとめられた。

なお、とりまとめにあたっては、プロジェクト研究と特別研究は相互に関連する研究内容であるということ、並びに統一的にまとめることによって関連情報として参照が可能になる等を考慮し、参考として本報告書へ掲載することとする。

## 1. 評価の結果

本評価結果は、平成14年度第1回国土技術政策総合研究所研究評価委員会港湾空港分科会における審議に基づきとりまとめたものである。

平成14年6月3日

国土技術政策総合研究所研究評価委員会港湾空港分会  
分科会長 森杉壽芳

### 「地域の価値向上のためのゲートウェイ空間整備手法に関する研究」の評価結果

#### 【総合評価】

本研究課題は、国土交通行政の一つである「美しく良好な環境の保全と創造」を実現するための、極めて重要なテーマであると認められるので、重点的に実施されるべきと評価する。

#### 【研究を実施するにあたっての留意事項】

本研究においては、社会資本整備や景観工学的アプローチだけにとらわれず、国総研という立場を活かし、他分野の人たちを交えた広い観点からの研究と連携して研究を進めていくことが重要である。

また、整備手法については、具体的な整備にどのように結び付けていくのかという点に関してもっと強化が必要であり、さらに研究のアウトプットである方法論が地域への押し付けとならないよう注意することも必要である。

なお、研究を進めるにあたっては、以下の点について整理しておく必要がある。

- ・ 多元的な価値をどう総合的に評価するか。
- ・ 地域における価値判断・意志決定過程において本研究成果はどのように位置づけられるか。

## 2. 評価の結果に対する対応方針

評価結果を踏まえ、研究のアウトプットである整備手法の検討にあたっては、実行可能性に留意するとともに、分かりやすいアウトプットを目指す。さらに、地域への押し付けとならないよう留意する。また、研究の遂行にあたっては、他分野の研究者と連携しつつ幅広い観点から実施する。

その他ご指摘頂いた意見については、十分、念頭においた上で研究を進めて参りたい。

## 平成14年度 第1回 国土技術政策総合研究所 研究評価委員会港湾空港分科会議事要旨

1. 日時：平成14年5月22日(水) 10:00～12:00
2. 場所：東京 虎ノ門パストラル 5F マグノリアの間
3. 出席委員：井口典夫、日下部治、辻幸和、三村信男、森杉壽芳、屋井鉄雄(五十音順、敬省略)
4. 平成15年度新規要求特別研究の評価「地域の価値向上のためのゲートウェイ空間整備手法に関する研究」についての評価委員の意見及びそれらに対する国総研の回答

< 凡例 > : 評価委員からの意見 : 国総

### 研の回答

地域によって価値観が異なったり、データが異なったとしても、方法論が画一的だと結果も似通ったものになる。方法論を位置付けることは大切だが、地域へアイデアを押し付けるようなものにならないよう注意が必要である。

本研究の成果については、住民への押し付けではなく、これまでの地元との係わりを十分に念頭に置いた上で、住民の視点にたった形で活用していきたい。

地域の参画の視点が分かりにくい。また、他の価値と併せて多面的な価値をどう総合的に評価するのか。

将来的には、経済的な価値、機能的な価値等も含めた多面的な価値についても研究していきたいと考えているが、当面は時代とともに変化しないような深層的価値構造を主体とした研究を行っていく。

心理分析から法制度までの非常に幅広い研究となっているが、現体制で実行可能か。実行可能性についての検討を行う必要があると考える。

観光をあまりに強調しすぎると住民の居住空間としての問題を見逃してしまう恐れがある。

景観分析に関して、どの視点からみた人の分析なのか分からない。子供、大人等多角的な視点から分析を行うべきである。

社会資本整備や景観工学的アプローチだけにとらわれず、国総研という立場を活かして、もっと他分野の人たちを交えた広い観点からの研究が必要ではないか。また、公共の空間だけでなく、民間施設、商店街、街の賑わい等が街の価値に多大な影響を与えていることから、街づくり、コミュニティー計画、歴史的建造物の保存等多様なアプローチから本格的に行う必要があると考える。

整備手法については、具体的な整備にどうやって結び付けていくのかという点に関してもっと強化してもらいたい。ボストンの事例を示して頂いたが、ボストンの場合は50年間(半世紀)の議論の蓄積として現在の考えに達したわけである。やはり、基礎的な部分を積上げ、また地域の取組状況について、もっと調べる必要があると思われる。

当該研究をどのように地域の活性化に結び付けていくのかについて、景観の専門性は

必要であるが、それを共有するための情報の提供の仕方に関しバーチャルリアリティーのようなツールを活用し、さらには進化させるような研究を行ってほしい。  
ゲートウェイとしての視点を考えるとき、市町村が実施するような宅地開発の問題と歴史資産をどう残していくか、という点を結び付けないと結果的にうまくいかないことが、浦賀の事例からでも分かる。

空港、港湾近辺の整備は、画一的、統一的でも構わないのではないか。

地域における空港の立場は、どのような位置付けになるのか。駅周辺の整備手法と空港周辺の整備手法の違いに、どのような価値観をものさしにしていくつもりか。

既存のゲートウェイの空間だけなのか、新しいサイトをも考慮したものなのかが分からない。研究（空間）の範囲をもう少し明確にした方がよい。新しいサイトでは、意思決定をおこなうために定量化が必要になってくると思われる。

新規整備にも適用可能であるが、現実的には、ストックマネジメントの観点から、改良等が主たる対象となる。

いいテーマだと思うので、積極的に進めていただきたい。また、新規要求に値するテーマだと認識している。